参考資料3

別添資料集

別添１　家庭復帰の適否判断のチェックリスト・・・ｐ１～２

＊　新（ｐ１）、旧（ｐ２）

別添２　アセスメントシート・・・・・・・・・・・・ｐ３～５

別添３　個別ケース検討会議シート・・・・・・・・・ｐ６～８

＊　新（ｐ６）、旧（ｐ７～８）

別添４　リスクアセスメントシート・・・・・・・・・ｐ９

家族関係支援のためのアセスメント

（初回・　　回目）

記入者氏名		記入日	平成　　年　　月　　日
記入者所属・職		子どもの年齢（学年）	
子ども氏名	男・女　　年　月　日生	進学等の節目まで	年
入所施設名	施設入所日	施設入所経過	年　　ヶ月

虐待の内容（子どもが虐待者（　　以下、虐待者については親と表記）にされたことを記述）

親の意識（該当に○）
相談・支援を受け入れる姿勢がある
C　D
A　B　→ 虐待の認知あり

親タイプ（該当に○）
1. 育児ストレスタイプ　4. 抑うつタイプ　7. 依存タイプ
2. 未熟タイプ　5. 易怒タイプ
3. 愛情欠如タイプ　6. パーソナリティ障害タイプ

（該当に○）

視点	項目 ☆は重要項目【リスクアセスメント関連NO】	家族全体のアセスメントを心がけること	はい	はいやや	どちらとも	いいえやや	いいえ	不明？	着目のポイント（該当と思われるもの全てを○で囲む（改善されてきたポイントをチェックする））
子ども	☆1	親（虐待者としてのきょうだい等も含む）に対する恐怖心が軽減し、安心・安定した自然な接触ができる【19意思気持ち】							親に会いたがる。親の話題に抵抗がない。見捨てられ不安の軽減。親への思慕・愛着がある。面会等の後に不安定にならない。子どもが安心して親と居られる。親の前で自分の意見を自由に言える。安心・安全が保障されている。親子でお互い楽しく過ごせる。親子がお互いに肯定的に評価しあえる。親子の非言語的な関わりが良好。
	2	子どもの健康・成長・発育が順調である【15身体の状態／16精神の上程】							継続的な医療を受けることで安定している。継続的医療を必要としない。〔知的障害・発達障害・精神障害・肢体不自由・疾病〕
	3	対人関係や情緒が安定し、環境や集団に適応可能である【16精神の状態／18問題行動】							対人的トラブルがない。情緒安定。明るくなった。自身をもった。将来への夢や希望を持つ。本人が大切に思えること・人・ものがある。
	4	虐待に対する認知に改善が見られる【19意思気持ち】							施設入所の理由を「自分が悪い子だから」ととらえていない。施設入所の理由を理解している。自己肯定感が醸成されてきた。〔年齢的・能力的に困難〕
	5	家庭復帰への希望がある（施設が嫌だから等の消極的な理由でない）【19意思気持ち】							面会を希望する。家族のことを話題にする。家庭復帰を望む気持ちがある。〔年齢的・能力的に困難〕
	6	虐待再発時、援助が求められる。【19意思気持ち】							口止めされても言える。圧倒されても逃げ出せる。〔年齢的・能力的に困難〕
家庭・保護者（	☆7	虐待の事実を認めている。【21虐待自覚なし／25援助効果なし】							虐待は認めないが行為は認める。行為も虐待も認めている。虐待の結果子どもの成長に悪影響を及ぼしていることを理解している。カウンセリングを受けている。子どもに謝罪している。子どものせいにしない。親の都合にいいよう誤った理解をしない。
	8	引き取りを希望し、問題解決に取り組む具体的な準備をしている【14家事育児能力／20子への感情態度／21-2養育意欲】							引き取り希望がある。家事ができる。子どもの立場・気持ちをくみ取ることができる。引き取りたい想いに行動が伴っている。夫婦間で想いが一致。
	☆9	生活基盤が安定している【8経済問題／9生活環境】							電気ガス水道代家賃をきちんと支払えるなどの経済基盤が保障されている。〔戸建・集合・借家・持家・間取り：　　〕
	10	家族・夫婦間の問題がない（パートナーを含む）【7家族問題】							夫婦関係が安定。主張の対等性が確保。夫婦で子どもに面会しようとする。〔葛藤不満、孤軍奮闘、同調共謀、支配服従、暴力・DV〕
	11	子どもへの怒りや衝動を適切にコントロールできる【12性格的問題／20子への感情態度】							言動に配慮している。体罰に対して否定的となっている。物を壊す等しない。〔能力的に困難〕
	12	親が精神的に安定している（必要に応じて医療機関との関わりがもてる）【11精神的状態／137ルコール薬物】							子どもの行動・言動等を被害的に受け止めない。〔アルコール・薬物・入退院繰り返し・犯罪歴・知的障害・精神症状・うつ的〕
	13	子どもの年齢、発達あるいは場面に応じ適切な養育ができる【14家事育児能力／17日常的世話の欠如／20子への感情態度／21-1ネグレクト／22養育知識】							育児知識・技術が備わっている。備えようという意欲や具体的な行動が見られる。他のきょうだいのケア（養育）ができる。子どもの知的・身体的能力への理解がある。〔能力的に困難〕
	☆14	児童相談所若しくは関係機関との良好な相談関係がもて、適宜必要な援助が求められる							援助を受ける姿勢がある。児童相談所・市町村・施設里親と関係が築ける。地域のサービスを受け入れようとする。
地域	15	近隣・地域・親族との関係に問題がない【10子を守る人なし／23社会的サポート】							その家族を支えるに際して中心的役割がとれる人・家族に影響力がある人・相談に来られる人・"困っている"認識を持つ人がいる。孤立していない。トラブルを抱えていない。住環境に問題がない。
	☆16	公的機関等による支援体制が確保されている【23社会的サポート】							地域に活用できる資源がある。地域にサポート体制がある。転校先との連携がとれている。
経過	17	施設入所の理由が、親・児童相談所・施設里親等の3者で共有され、3者が引取りを進めることが適切だと考えいる。							
	18	通信・面会・外出・外泊等を計画的に実施し、経過が良好である。							
評価		A. 家庭復帰を進める B. 家庭復帰に課題あり（何が改善される必要があるか） C. 家庭復帰は不可 方法：交流前支援／通信／立会外出／外出／親子訓練室利用／訪問有外泊／3日未満外泊／7日未満外泊／引取前提外泊／他							

新

（別表）

家庭復帰の適否を判断するためのチェックリスト

氏名　　再統合対象者

（　　）（　　）　　記入日（　　年　　月　　日）

		チェックの視点	チェック項目（該当欄に○をつける）	はい	ややはい	ややいいえ	いいえ	不明	特記事項
経過	1	交流状況	面会・外泊等を計画的に実施し、経過が良好である						
	2	施設等の判断	施設、里親等が家庭引取りを進めることが適切だと考えている						
子ども	3	乳児非該当 家庭復帰の希望	家庭復帰を望んでいる（真の希望でない場合は●）						
	4	保護者への思い、愛着	保護者に対する恐怖心はなく、安心・安定した自然な接触ができる						
	5	健康・発育の状況	成長・発達が順調である						
	6	対人関係、情緒の安定	乳児非該当 対人関係や集団適応に問題はなく、情緒面は安定している						
			乳児項目 主たる保育者との関係において問題はなく、情緒面は安定している						
	7	乳児非該当 リスク回避能力	虐待の再発等危機状況にあるとき、相談するなどして危機回避ができる						
保護者	8	引取りの希望	家庭引取りを希望している（真の希望でない場合、依存的要素を含む強すぎる希望は●）						
	9	虐待の事実を認めていること	虐待の事実を認め、問題解決に取り組んでいる						
	10	子どもの立場に立った見方	子どもの立場や気持ちをくみ取りながら子育てができる						
	11	衝動のコントロール	子どもへの怒りや衝動を適切にコントロールできる						
	12	精神的安定	精神的に安定している（必要に応じて医療機関とのかかわりがもてる）						
	13	養育の知識・技術	子どもの年齢、発達あるいは場面に応じ、適切な養育ができる						
	14	関係機関への援助関係構築の意思	児童相談所や地域の関係機関と良好な相談関係が持て、適宜必要な援助が求められる						
	15	地域、近隣における孤立、トラブル	近隣から必要なときに援助が得られる						
家庭環境	16	親族との関係	親族から必要なときに援助が得られる						
	17	生活基盤の安定	経済面、住環境面での生活基盤が安定的に確保されている						
	18	子どもの心理的居場所	家族関係が良好で、家庭内に子どもの心理的な居場所がある						
地域	19	地域の受入れ体制	公的機関等による支援体制が確保されている						
	20	地域の支援機能	支援の中心となる機関があり、各機関が連携して支援が行える						
評価			A　家庭復帰を進める B　家庭復帰に課題あり C　家庭復帰は不可 （B、Cの場合、その理由を記入）						

乳児用

旧 家庭復帰の適否を判断するためのチェックリスト

氏 名（　　）　　記入日（平成　年　月　日）

		チェックの視点	チェック項目（該当欄に〇をつける）	はい	ややはい	ややいいえ	いいえ	不明	特記事項
経過	1	交流状況	面会・外泊等を計画的に実施し、経過が良好である。						
経過	2	施設職員等の判断	施設職員、里親等が家庭引取りを進めることが適切だと考えている。						
子ども	3	保護者への思い、愛着	保護者に対する恐怖心はなく、安心・安定した自然な接触ができる。						
子ども	4	健康・発育の状況	成長・発達が順調である。						
子ども	5	対人関係、情緒の安定	主たる保育者との関係において問題はなく、情緒面は安定している。						
保護者	6	引取りの希望	家庭引取りを希望している（真の希望でない場合、依存的要素を含む強すぎる希望は●）。						
保護者	7	虐待の事実を認めていること	虐待の事実を認め、問題解決に取り組んでいる。						
保護者	8	子どもの立場に立った見方	子どもの立場や気持ちを汲み取りながら子育てができる。						
保護者	9	衝動のコントロール	子どもへの怒りや衝動をコントロールできる。						
保護者	10	精神的安定	精神的に安定している（必要に応じて医療機関とのかかわりがもてる）。						
保護者	11	養育の知識・技術	子どもの年齢、発達あるいは場面に応じ、適切な養育ができる。						
保護者	12	関係機関への援助関係構築の意思	児相や地域の関係機関と良好な相談関係がもて、適宜必要な援助が求められる。						
保護者	13	地域・近隣における孤立、トラブル	近隣、地域との関係に問題がない。						
保護者	14	親族との関係	親族との関係に問題がない。						
家庭環境	15	生活基盤の安定	経済面、住環境面での生活基盤が安定的に確保されている。						
家庭環境	16	子どもの心理的居場所	家族関係が良好で、子どもの心理的な居場所が確保されている。						
地域	17	地域の受入れ体制	公的機関等による支援体制が確保されている。						
評価			A 家庭復帰を進める B 家庭復帰に課題あり C 家庭復帰は不可 （B、Cの場合、その理由を記入）						

旧 家庭復帰の適否を判断するためのチェックリスト

氏名（　　）再統合対象者（　　）　記入日（平成　年　月　日）

		チェックの視点	チェック項目（該当欄に〇をつける）	はい	ややはい	ややいいえ	いいえ	不明	特記事項
経過	1	交流状況	面会・外泊等を計画的に実施し、経過が良好である。						
経過	2	施設等の判断	施設、里親等が家庭引取りを進めることが適切だと考えている。						
子ども	3	【乳児非該当】家庭復帰の希望	家庭復帰を望んでいる（真の希望でない場合は●）。						
子ども	4	保護者への思い、愛着	保護者に対する恐怖心はなく、安心・安定した自然な接触ができる。						
子ども	5	健康・発育の状況	成長・発達が順調である。						
子ども	6	対人関係、情緒の安定	【乳児非該当】 対人関係や集団適応に問題はなく、情緒面は安定している。						
子ども	6	対人関係、情緒の安定	【乳児該当】 主たる保育者との関係において問題はなく、情緒面は安定している。						
子ども	7	【乳児非該当】リスク回避能力	虐待の再発等危機状況にあるとき、相談するなどして危機回避ができる。						
保護者	8	引取りの希望	家庭引取りを希望している（真の希望ではない場合、依存的要素を含む強すぎる希望は●）。						
保護者	9	虐待の事実を認めていること	虐待の事実を認め、問題解決に取り組んでいる。						
保護者	10	子どもの立場に立った見方	子どもの立場や気持ちをくみ取りながら子育てができる。						
保護者	11	衝動のコントロール	子どもへの怒りや衝動を適切にコントロールできる。						
保護者	12	精神的安定	精神的に安定している（必要に応じて医療機関とのかかわりがもてる）。						
保護者	13	養育の知識・技術	子どもの年齢、発達あるいは場面に応じ、適切な養育ができる。						
保護者	14	関係機関への援助関係構築の意思	児童相談所や地域の関係機関と良好な相談関係がもて、適宜必要な援助が求められる。						
保護者	15	地域・近隣における孤立、トラブル	近隣から必要なときに援助が得られる。						
保護者	16	親族との関係	親族から必要なときに援助が得られる。						
家庭環境	17	生活基盤の安定	経済面、住環境面での生活基盤が安定的に確保されている。						
家庭環境	18	子どもの心理的居場所	家族関係が良好で、家庭内に子どもの心理的な居場所がある。						
地域	19	地域の受入れ体制	公的機関等による支援体制が確保されている。						
地域	20	地域の支援機能	支援の中心となる機関があり、各機関が連携して支援が行える。						
評価			A 家庭復帰を進める B 家庭復帰に課題あり C 家庭復帰は不可 （B、Cの場合、その理由を記入）						

【アセスメントシート：乳幼児用（３歳未満）】　児童氏名　　年　月　日受理

・通告または他機関から聴取した、もしくは直接確認した情報に基き、該当するものには右欄に〇を、未確認情報のレベルには△をつける。該当しない場合は、－を記入する。不明の場合は、空白とする。
・変化があった場合には再度活用し、直ちに上司に報告し対応を協議する。

1. 状況確認・安全確認の必要性

	① 年 /	② 年 /	
市町村児童家庭相談担当職員が児童に会っていない。			1
子どもの状態を誰も確認できていない。			2
子ども・家族の所在・状態が不明			3
入手した情報だけでは子どもの安全性まで確認できたとならない。			4
養育者が接触を拒んでいる。			5
過去にも虐待歴があり、直接の安全確認が必要			6

2. 虐待のリスク要因　該当項目を〇で囲む。

※これらの要因は、虐待のリスク要因として、周産期及び子どもの状況を具体的に調査していくことが重要

		①	②	
妊娠・出産状況	望まない妊娠　未受診　若年出産　孤立した出産　多胎児　低出生体重児			7
健診等	健診を未受診　予防接種（未接種・ほとんど未接種）			8
身体的状況	先天性疾患　慢性疾患　身体障がい			9
発育状況（身長・体重）	－2SD以下または50%タイル以上の低下			10
発達状況	知的障がい　発達障がい			11
子どもの状況	よく泣く　食事むらがある（家食・拒食）　嘔吐　多動　なつかない　無表情 保護者にとって育ててにくさがある　等			12

3. 子どもの状態　（身体的虐待 ・ ネグレクト ・ 性的虐待 ・ 心理的虐待）

特Aランク：【最重度】生命の危機が「ありうる」「危惧する」もの。即刻入院加療が必要な疾病・外傷がある。親子心中 等
※迅速な調査を行い、子どもの安全確保（一時保護）を最優先に、緊急対応の検討が必要

該当項目を〇で囲む。

		①	②	
身体的	頭部外傷 ― 骨折、硬膜下出血、クモ膜下出血、眼底出血、皮下出血、皮内出血 等			13
	腹部外傷 ― 内臓損傷、皮下出血、皮内出血 等			14
	頭部、腹部以外の骨折・裂傷・打撲傷、目の外傷がある。			15
	熱湯や熱源による火傷、熱傷痕がある。			16
	顔面・頭部への強い攻撃、乳児を強く揺する。			17
	腹部を蹴る、踏みつける、殴る。			18
	重篤な外傷のおそれがある行為 ― 逆さ吊り、乳幼児を投げる 等			19
	窒息の危険 ― 首を絞める。水につける。布団蒸しにする。鼻と口を塞ぐ。口に物を詰める。			20
	養育者が親子心中を考えている。			21
	閉じ込められる。（押入れに閉じ込められる。箱状のものに閉じ込められる。一室に閉じ込められ関わりがない。紐等でくくりつけられる等行動を拘束される。）			22
	代理ミュンヒハウゼン症候群の疑いがあり、生命の危険が「ありうる。」「危惧する。」もの（症状の捏造）			23
	不適切な薬物投与により、生命の危険が「ありうる。」「危惧する。」もの			24
ネグレクト	脱水症状、栄養不足のため衰弱がおきている。			25
	感染症や下痢等、健康管理上必要な医療を受けさせてもらえない。または重度慢性疾患があるのに医療受診なく放置されている。			26
	生活環境不良や監護が不十分のために成長障がいが顕著である。（低身長、身長に比しての低体重 等）			27
	生活に不可欠な食事・衣類・住居が保障されていない。（ライフラインが止まるのも含む。）			28
	養育者が児童を置いて不在になることがある。			29
性的	性行為やわいせつ行為を受けた、または受けた疑いがある。性感染症、性器・肛門周辺の外傷			30

Aランク：【重度】今すぐには生命の危険はないと考えるが、子どもの健康や成長・発達に重大な影響が出ている。
医療を必要とする外傷がある又は近い過去にあったもの 等

※迅速な調査により、子どもの安全の確認が必要。安全確保の必要性を状況に応じて判断する。
※安全確保の必要性が判断されれば、最重度同様の対応となる。在宅モニタリングの判断となれば、関係機関との連携により、指導・安全確認の視点・見守りのポイントを明らかにして在宅モニタリングの体制を整える。

該当項目を〇で囲む。

		①	②	
身体的	医療を必要としないが、打撲傷・傷痕（タバコ等）がある。			31
	代理ミュンヒハウゼン症候群の疑いがある（症状の捏造）　※子どもの身体的状況により最重度にする。			32
	不適切な薬物投与がある。　※子どもの身体的状況により最重度にする。			33
ネグレクト	養育者の監護が不十分なため、転んだり、ぶつけたりのケガが多い。			34
	生活環境や育児条件が不良で、事態の改善が望めない。			
	・十分な身体的ケアや情緒ケアを受けていない。（発育段階に応じた食事が与えられていない。衣服が替えられてい ない。・入浴しない等不潔な状況が続き、皮膚疾患等の問題がある。 放置され愛着を形成する関わりがないため、無表情・視線があわない。 ・笑わない等がみられる。）			35
	・極めて不衛生、物の散乱、大量のゴミや危険物（薬物・ガラス・タバコ等）だらけの家の状態。虫の発生や異臭がひどい。			36
	夜間や昼間に長時間外に出されている、又は子どもが出て行っても養育者が放置している。			37
性的	性行為・性的な映像・写真等を見せる等されている。			38
心理的	激しい叱責や脅しのため子どもが、無表情 ・委縮 ・服従 ・暴力的な行動、食事や排便等に影響がある等、情緒的な問題が顕著である。			39
	夫婦間の激しいDVや喧嘩に終始さらされている。保護者の自殺企図、自傷に度々さらされている。			40

Bランク：【中度】今は入院を要するほどの外傷や栄養障がいはないが、長期的にみると人格形成に問題を残すことが危惧される。養育環境の不適切さがあり、安全や成長に影響がある。
※子どもの安全確認ができていれば、関係機関の連携などにより指導・在宅モニタリング体制を整える。

該当項目を〇で囲む。

		①	②	
身体的	外傷が残らない程度の暴力、あるいは単発の小さくわずかなケガ			41
	過度あるいは偏ったしつけ、教育（子どもの発達を理解してないしつけ、暴力容認のしつけ・教育論など）			42
	代理ミュンヒハウゼン症候群の疑いがある。（症状の捏造）　※子どもの身体的症状により重度にする。			43
	不適切な薬物投与がある。　※子どもの身体的状況により重度にする。			44
ネグレ	子どもに健康問題をおこすほどではないネグレクト			45
	知的障がい・発達障がいが顕著であるのに適切な療育を受けさせてもらえない。（障がい受容の拒否も含む）			46
心理的	無視、けなし、暴言、乱暴な扱い、叱責などの不適切な関わりがある。			47
	きょうだい間の極端な差別がある。			48
	父母間でDVがある。			49

Cランク：【軽度】実際に子どもへの暴力や養育に対する拒否感があり、加害者本人や周囲の者が虐待と感じているが、衝動コントロールが一定できる。まだ、親子関係には重篤な病理がない。
※子どもが確認されていれば、虐待者の援助体制（相談窓口・サービス利用）を整える。

		①	②	
	養育者が虐待をしてしまいそうという不安を訴える。			
身体的	・暴力を振るってしまいそう（身体的虐待）			50
ネグレ	・拒否感の訴え（ネグレクト）			51

特記事項

【記入者氏名】　　決裁者　　印

【 アセスメントシート: 児童用 （ 3歳以上 ）】　児童氏名　　年　月　日受理

・通告または他機関から聴取した、もしくは直接確認した情報に基き、該当するものに右欄には〇を、未確認情報のレベルには△をつける。該当しない場合は、－を記入する。不明の場合は、空白とする。
・変化があった場合には再度活用し、直ちに上司に報告し対応を協議する。

1. 状況確認・安全確認の必要性

※速やかに状況確認・安全確認の方法について検討する。

	① 年 /	② 年 /	
市町村児童家庭相談担当職員が児童に会っていない。			1
子どもの状態を誰も確認できていない。			2
子ども・家族の所在・状態が不明			3
入手した情報だけでは子どもの安全性まで確認できたとならない。			4
養育者が接触を拒んでいる。。			5
過去にも虐待歴があり、直接の安全確認が必要			6

2. 虐待のリスク要因

該当項目を〇で囲む。

※これらの要因は、虐待のリスク要因として、周産期及び子どもの状況を具体的に調査していくことが重要

		①	②	
妊娠・出産状況	望まない妊娠　未受診　若年出産　孤立した出産　多胎児　低出生体重児			7
健診等	健診を未受診　予防接種（未接種 ・ほとんど未接種）			8
身体的状況	先天性疾患　慢性疾患　身体障がい 発育不全（－2SD以下または50%タイル以上の低下）　アレルギー体質			9
発達状況	知的障がい　発達障がい			10
情緒・行動の状態	落ち着きのなさ　不安　抑うつ的　チック　脱毛　抜毛　無表情　攻撃的 反抗的態度　過度の従順　対人関係の問題（無差別的愛着、希薄、しがみつき） かい離　夜尿　遺尿　遺糞　食行動の異常（盗食、過食、異食、拒食）			11
問題行動	多動　暴力　破壊行動　盗み　家出　虚言　性化行動　自傷　深夜徘徊 怠学　不登校　小動物虐待			12
意思・気持ち	帰りたがらない。　保護を求める。　養育者を拒否			13

3. 子どもの状態　（ 身体的虐待 ・ ネグレクト ・ 性的虐待 ・ 心理的虐待 ）

特Aランク:【最重度】生命の危機が「ありうる」「危惧する」もの。即刻入院加療が必要な疾病・外傷がある。親子心中 等

※迅速な調査を行い、子どもの安全確保（一時保護）を最優先に、緊急対応の検討が必要

該当項目を〇で囲む。

		①	②	
身体的	頭部外傷　－　骨折、硬膜下出血、クモ膜下出血、眼底出血、皮下出血、皮内出血　等			14
	腹部外傷　－　内臓損傷、皮下出血、皮内出血　等			15
	重篤な外傷、複数の骨折・打撲傷・熱傷痕			16
	顔面・頭部への強い攻撃			17
	腹部を蹴る。踏みつける。殴る。			18
	重篤な外傷のおそれがある行為　－　逆さ吊り。激しく投げつける。　等			19
	窒息の危険　－　首を絞める。水につける。布団蒸しにする。鼻と口を塞ぐ。口に物を詰める。			20
	養育者が親子心中を考えている。			21
	【重度】の閉じ込められる〈30〉に身体的暴力が加わっている。			22
	代理ミュンヒハウゼン症候群の疑いがあり、生命の危険が「ありうる」「危惧する」もの（症状の捏造）			23
	不適切な薬物投与により、生命の危険が「ありうる」「危惧する」もの			24
ネグレ	脱水症状、栄養不足のため衰弱がおきている。			25
性的	性行為やわいせつ行為を受けた、または受けた疑いがある。　性感染症、性器・肛門周辺の外傷			26

Aランク:【重度】今すぐには生命の危険はないと考えるが、子どもの健康や成長・発達に重大な影響が出ている。
医療を必要とする外傷がある又は近い過去にあったもの　等

※迅速な調査により、子どもの安全の確認が必要。安全確保の必要性を状況に応じて判断する。
※安全確保の必要性が判断されれば、最重度同様の対応となる。在宅モニタリングの判断となれば、関係機関との連携により、指導・安全確認の視点・見守りのポイントを明らかにして在宅モニタリングの体制を整える。

該当項目を〇で囲む。

		①	②	
身体的	頭部・腹部以外の骨折・裂傷、打撲傷、目の外傷がある。			27
	熱湯や熱源による火傷、熱傷痕がある。			28
	複数の打撲傷や傷痕（タバコ等）がある。			29
	閉じ込められる。（押入れに閉じ込められる。箱状のものに閉じ込められる。紐等でくくりつけられる等の行動を拘束される。）　※身体的暴力が伴っている場合は最重度にあげる。			30
	代理ミュンヒハウゼン症候群の疑いがある（症状の捏造）　※子どもの身体的状況により最重度にする。			31
	不適切な薬物投与がある。　※子どもの身体的状況により最重度にする。			32
ネグレクト	感染症や下痢等、健康管理上必要な医療を受けさせてもらえない。または重度慢性疾患があるのに医療受診なく放置されている。			33
	生活環境不良や監護が不十分なため成長障がいが顕著である。（低身長、身長に比しての低体重など）			34
	生活に不可欠な食事・衣類・住居が保障されていない。（ライフラインが止まるのも含む。）			35
	就学前年齢児を置いて、養育者が不在になる（長時間・夜間）ことが継続している。			36
性的	性行為・性的な映像・写真等を見せる等されている。			37
心理的	激しい叱責や脅しのため子どもが、無表情・委縮・服従・暴力的な行動、食事や排便等に影響がある等、情緒的な問題が顕著である。			38

Bランク:【中度】今は入院を要するほどの外傷や栄養障がいはないが、長期的にみると人格形成に問題を残すことが危惧される。栄養環境の不適切さがあり、安全や成長に影響がある。

※子どもの安全確認ができていれば、関係機関の連携などにより指導・在宅モニタリング体制を整える。

該当項目を〇で囲む。

		①	②	
身体的	医療を必要とはしないが、打撲痕や傷痕（タバコ等）がある。			39
	代理ミュンヒハウゼン症候群の疑いがある。（症状の捏造）　※子どもの身体的症状により重度にする。			40
	不適切な薬物投与がある。　※子どもの身体的状況により重度にする。			41
ネグレクト	養育者の監護が不十分なため、転んだり、ぶつけたりのケガが多い。			42
	生活環境や育児条件が不良で、事態の改善が望めない。			
	・十分な身体的ケアや情緒ケアを受けていない。（発育段階に応じた食事が与えられていない。衣服が替えられていない。・入浴しない等不潔な状況が続き、皮膚疾患等の問題がある。放置され愛着を形成する関わりがないため、視線があわない。・感情表出が乏しい等がみられる。）			43
	・極めて不衛生、物の散乱、大量のゴミや危険物（薬物・ガラス・タバコ等）だらけの家の状態。虫の発生や異臭がひどい。			44
	就学前年齢児を置いて養育者が不在になる。（長時間、夜間） 時折、大人の監督なく家に放置されているため、子どもの安全管理が不十分			45
	夜間や昼間に長時間外に出されている。又は、子どもが出て行っても養育者が放置している。			46
	明らかな登校禁止状態に置かれている。			47
心理的	無視、けなし、暴言、乱暴な扱い、叱責などの不適切な関わりが継続している。			48
	父母間の激しいDVや喧嘩に終始さらされている、保護者の自殺企図、自傷に度々さらされている。			49

Cランク:【軽度】実際に子どもへの暴力や養育に対する拒否感があり、加害者本人や周囲の者が虐待と感じているが、衝動コントロールが一定できる。まだ、親子関係には重篤な病理がない。

※子どもが確認されていれば、虐待者の援助体制（相談窓口・サービス利用）を整える。

該当項目を〇で囲む。

		①	②	
身体的	外傷が残らない程度の暴力、あるいは単発の小さくわずかなケガ			50
	過度あるいは偏ったしつけ、教育（子どもの発達を理解していないしつけ、暴力容認のしつけ・教育論など）			51
ネグレ	学齢児をおいて養育者が不在になる。（長時間、夜間）時折、大人の監督なく家に放置されているため、子どもの安全管理が不十分			52
	子どもに健康問題をおこすほどではないネグレクト			53
	知的障がい・発達障がいが顕著であるのに適切な療育を受けさせてもらえない。（障がい受容の拒否も含む）			54
心理的	無視、けなし、暴言、乱暴な扱い、叱責等の不適切な関わりがある。			55
	きょうだい間の極端な差別がある。			56
	父母間でDVがある。			57

特記事項

【記入者氏名】　　決裁者　　印

【 アセスメントシート：保護者用 】　　児童氏名　　年　月　日 受理

・主たる虐待者を「主」の欄に、同居保護者や非加害親は「従」の欄に記載。（ ）には続柄を 記載。
・保護者や関係者からの聞き取りに基づき、該当するものの右欄に〇を、疑いのものには△を記入。
・該当しない場合は、ーを記入する。不明の場合は、空白とする。

〈保護者（虐待者・複数有）の状況〉　該当項目を〇で囲む。

			①　年　／ 主	①　年　／ 従	②　年　／ 主	②　年　／ 従	
			（　）	（　）	（　）	（　）	
		市町村児童家庭相談担当職員が虐待者と会えていない。					1
精神・心理	精神疾患及び精神症状身体疾患	統合失調症、気分障がい（そううつ）、出産後うつ、神経症、自殺企図、自傷、他害、PTSD、かい離、人格障害（　　）、その他（　　） ※診断等がある場合に〇を記載。疑い、もしくは既往歴のある場合は△					2
		治療継続中、未治療、治療中断、服薬中					3
	障がい	知的障がい、身体障がい、精神障がい、発達障がい ※障がい者手帳を所持している場合は〇、所持していない場合（不明を含む）で疑いの場合には△					4
	依存症	過去：アルコール、薬物・シンナー、ギャンブル、浪費（買い物）（　　）（　　頃） 現在：アルコール、薬物・シンナー、ギャンブル、浪費（買い物）（　　） ※診断がある場合以外にも、保護者や関係者からの聞き取りに基づいて〇を記載					5
	犯罪歴	暴力～殺人、強盗、傷害、暴行、脅迫、公務執行妨害、器物損壊 薬物～シンナー、覚せい剤、薬物 盗み～恐喝、窃盗　　経済犯～詐欺、横領 性犯罪～強姦、強制わいせつ、公然わいせつ その他（　　）					6
	保護者から児童に対する虐待歴	身体的　／　ネグレクト　／　性的　／　心理的					7
		本児の兄弟姉妹の不審死歴： ※事件性の有無に関わらず該当すれば記載（明らかな病死は除く。）					8
	性格・行動	強迫的：本人が不合理と自覚しているが、抑え切れない行為や感情。（例「子どもは、かくあるべきとの強いおもい。」、「子どもは、親の言うとおりにしなければならない。」）					9
		衝動的：感情が昂ると自分を抑えられなくなる。行動のコントロールができない。					10
		攻撃・暴力的：人や物への暴力。脅しや脅迫的な言動（例「怒らしたら何をするかわからんぞ。」「夜道は気をつけろ。」、「今度は殺すぞ。」） 暴力の対象：家族、家族以外、子ども（特定の子、全員）、（　　）					11
		孤立・非社会的：日常生活、社会生活上、対人関係がとりにくい。					12
		認知の歪み：その人独自の受け取り方をし、自分勝手な思い込みが強く、自分の考えに執着する。					13
		共感性の欠如：相手の気持ちを理解できない、情緒の交流が持てない。					14
	子どもへの感情	拒否：子どもとの接触（衣食住の世話、顔を合わすこと）を拒む。子どもがかわいくない。望まない出産（例「あの子とは関係ない。」、「あの子とは関わりたくない。」「顔も見たくない。」「あの子がいるだけでうっとおしい。」）					15
		無関心：子どもに注意を向けない。子どもの成長・発達に関心を示さない。（例「あの子のことはわかりません。」、「あの子は祖母が面倒みています。」、「自分は自分のことで忙しい。」）					16
		執着・支配：子ども言動にすべて関与したがる。子どもの行動をコントロールしようとする。（例「あの子のことはすべてわかっている。」、「あの子には自分がいないとダメ。」、「ほっとくと自分の好きなことしかしない。」、「常に見ておかないと何をするかわからない。」）					17
		依存：子どもといつも一緒にいないと不安になる。親の役割を子どもにさせる。（例「あの子がしてくれる。」、「あの子にまかせている。」、「あの子にさせている。」、「あの子がいないと心配。」、「自分がいないとあの子は何もできない。」）					18
		過剰期待：子どもの特性を理解せず期待を押し付ける。					19
	保護者の被虐待歴	身／ネ／性／心　（親のDV）時期（　　頃） ：保護者が成育歴で受けた（と表明する）被虐待状況					20
認識	虐待に対する認識	しつけ・体罰容認：虐待行為（疑い）を認めるが、しつけと称して肯定する。（例「これはしつけでやっていること」、「子どもの（将来の、大きくなったときの）ためにやってる。」）					21
		否定：虐待行為（疑い）を認めない、知らない、事故又は子どもの責任と主張する。（例「虐待はしていない。」、「叩いているが虐待はしていない。」、「わからない。」）					22
		自分の問題を認めない：自分の考えを変えようとしない、子どもの問題と主張する。（例「自分の主義で変えるつもりはない。」、「自分も叩かれて育ったが、今は感謝している。」、「子どもが悪いから子どもが変わる必要がある。」） ※表面上、「叩かないという約束を守っている」と言う場合は△を記載					23
	同居保護者の虐待への態度・姿勢	同調：虐待者の行為を容認し加担する。（例「父（母）の言うとおり自分もしている。」、「父（母）のすることにまちがいはない。」）					24
		黙認：虐待者の行為を知っているが止めようとしない。（例「父（母）の言動をおかしいとは思わない。」、「あの人のやることに口は出せない。」）					25
		回避：虐待者の行為に気づかないふりをする。見ないふりをする。なかったことにする。（例「気がつかなかった。」、「父（母）とは関係ない。」、「今はもう何もないから」、「虐待はしないといっているから」					26

〈家庭環境〉　該当項目を〇で囲む。

			①主（　）	①従（　）	②主（　）	②従（　）	
スキル	養育行動	知識不足：養育に必要な知識をもっていない。知ろうとしない。何度も説明しているが理解しない、もしくはできない。自分勝手な思い込みで養育をする。					27
		ケア力の不足：授乳や入浴などの基本的ケアができない。もしくは、しようとしない。					28
関係機関・親族等の受入	親族との関係	依存：依存して生活を送っている。（経済面、心理面、日常生活）					29
		没交流・対立：交流がない。または対立している。					30
		過干渉：親族から行動に口出しをされる。					31
		アンビバレント：複雑な感情を抱いている。（依存と対立等）					32
	地域社会との関係	機関介入拒否：電話・訪問等に応じない。接触を拒否する。行政機関への不信（例「なぜ自分のところばかり来るのか。」、「他の人もやってる。」、「相談しろといわれることがストレス」、「家の中のことだからほっといて」、「自分たちでやれている。」「行政は何もしてくれず自分を責める。」					33
		接触困難：不在（居留守）がちで、連絡がとれない。応答がない。					34
		社会的孤立：近隣、友人との交流がない。					35
家庭状況	夫婦・家族関係	不和、DV：夫婦喧嘩、DV,家庭内別居等夫婦関係の問題が保護者等からの情報で確認できた場合。（例「子どものいるところで夫（妻）が自分を叩く。」、「夫（妻）から逃げるために子どもと一緒に家を出た。」					36
		ひとり親世帯：未婚、離婚、死別　時期（　　頃） ※評価時点で事実としてマーキング					37
		再婚：時期（　　頃）、再婚時の子ども（　　人） ※婚姻関係の存在を確認してマーキング、できなければ内縁でマーキング					38
		内縁関係：同居、行き来					39
		妊娠中、出産後間もない状態： ※評価時点で事実としてマーキング					40
	経済問題	失業・不安定就労：失業中、もしくは不定期就労、日々雇用労働、求職中、休職など、労働により一定の収入が得られない状態					41
		経済苦、多額の借金：生活費、光熱費、家賃などの支払いに困窮している。					42
		生活保護（受給中、廃止）：申請中の場合は経済苦にマーキング					43
	生活環境	不衛生：粗大ゴミ、生ゴミなどが室内外に散乱している。異臭がする。室内でペットを飼っているが放置している。					44
		家事・育児の欠如（食事、家事、洗濯、入浴）：					45
		安全への無配慮：危険なものを放置している。子どもだけの状態で放置している。（例「気がつかなかった。」、「知らない間になっていた。」、「子どもは部屋で寝ているから見ていない。」）					46
		転居：転居の繰り返し、突然の転居					47
関係機関の受入	社会的サポートの利用状況	親の治療 ・ 子の治療 ・ グループケア ・ 子育て支援サービス 親子教室 ・ 保育所 ・ 幼稚園 ・ 通園施設 ・ 学校 ・ 学童保育 ショートステイ ・ 一時保育 ・ 家事育児支援（ファミリーサポート、ヘルパー） 生活保護 ・（　　）年金 ・ 手当 ・ 等					48

特記事項

【記入者氏名】　　決裁者　　印

新

個別ケース検討会議シート

【作成者】	
【作成日】	

児童氏名		性別		生年月日	年齢		所属・学年
住所					連絡先		

	続柄	氏名	年齢	生年月日	職業	その他
家族構成						

○家族状況・これまでの経過概要

主訴		内容	
ケース・家族状況の特記		<ジェノグラム・エコマップ>	

日　時	<子どもの経過>	<親・家族の経過>	<対応経過>

○直近の様子

別添3
p6

○ケース（家族）の見立てや課題、問題点

・
・
・
・

○ケース（家族）のストレングス（強み）

・
・
・
・

○協議内容、出された意見

・
・
・
・

○援助方針、各機関の役割

・
・
・
・

○関係機関

所属	職名・氏名	所属	職名・氏名

○次回開催日・場所　開催日：　場所：

所　長	専門監	次　長	課　長	チーフ	担　当	

ケースカンファレンス用

旧　　第 1 回

秘

所属・担当者

別添3
p7

開催日	平成　　年　　月　　日	開催場所	
子ども氏名（生年月日・年齢・性別）		所属（未就学・幼保/学校名・年組・担任/校長名）	

住所	電話　　（　　）

同居家族及び親族	続柄	氏名	生年月日	年齢	職業	その他参考事項

現状	
	・子ども
	・保護者

出席者	機関名	職名・氏名	機関名	職名・氏名

各機関の役割	

その他確認事項	

今回確認されたこと	
	①
	②
	③
	④
	⑤

次回開催日	平成　　年　　月　　日
次回開催場所	

ケースカンファレンス用

第　　回

秘

所属・担当者名

別添3
p8

開催日	平成　　年　　月　　日	開催場所	

子ども氏名（生年月日・年齢・性別）	所属（学校名・学年等）

出席者	関係機関	職名・氏名	関係機関	職名・氏名	関係機関	職名・氏名

現状	・子ども
	・保護者
各機関の役割	
前回の確認事項	
今回確認されたこと	①
	②
	③
	④
	⑤

次回開催日	平成　　年　　月　　日
次回開催場所	

Ver 1.00

新 リスクアセスメント シート （初回・　　回目）

（あくまでも補助的な指標なので、定期的な概況把握や「めやす」として用いること）

ケース番号	―	評価日	平成　年　月　日	記入者	
児童氏名	男・女（　　歳　　ヶ月）				
虐待の種類	（主◎　副○）　身体・ネグレクト・心理・性的				
虐待者と具体行為	虐待者	行為と頻度		アセスメント評価	

虐待・傷の程度	摘　要（以下に応じてチェック）	重度	中度	軽度	不明
	重度＝要治療、中度＝慢性の痣等、軽度＝痕が残らない				

大項目	番号	小項目	摘　要（以下があれば該当）	該当	やや	非該当	不明
虐待態様	※1	虐待の継続	常習・何日も放置等 頻度が少ないのは「やや」	※			
	※2	虐待歴の有無	入院歴・施設歴・（早期の親子分離）不審な説明は「やや」	※			
	※3	性的虐待	疑いでも該当	※	／		
通告元	※4	関係機関	警察・医療機関からの通告は該当	※	／		
子ども	5	身体的状態	（発達）障害・発育不全・ｱﾚﾙｷﾞｰ等　理由不明の腹痛等は「やや」				
	※6	精神状態	不安・うつ的・攻撃的・暗い表情等 場合によりは「やや」	※			
	7	日常監護欠	監護なし 不潔・医療放置等。部分的なら「やや」				
	8	問題行動	暴力・盗み・家出・自傷・徘徊・怠学等 時々なら「やや」				
	※9	意思・気持ち	親を嫌う・おびえ・帰りたがらない・アンビバレンツ等	※			
虐待親	※10	精神的状態	不安定・うつ的・精神科通院服薬（疑いがある場合も）等	※			
	11	性格的問題	攻撃的・未熟・衝動的・偏り・依存等				
	※12	アルコール等	依存・薬物乱用の疑い等	※	／		
	13	被虐待歴	親の被虐待歴・施設入所歴・親に愛されなかった思い等		／		
	14	子への感情	不安定・子ども嫌い・無関心・望まない妊娠・過干渉・依存				
養育態勢	※15	虐待自覚	自覚なし・体罰容認等 親が過ぎたと認める場合「やや」	※			
	※16	養育能力	意欲なし・知的障害等 飲酒等で不適切な場合は「やや」	※			
	17	養育知識	知識不足・不適切な知識等 情報過多で過干渉は「やや」				
家族環境	※18	社会的支援	孤立的・親族の対立や過干渉等 非常時の支援は「やや」	※			
	※19	夫婦問題	夫婦不和・DV・家出・別居・未婚・（再婚・内縁）・中絶	※			
	20	経済問題	借金・生活苦・失業・転職・多子・計画性の欠如等		／		
	21	生活環境	ゴミ屋敷、ﾍﾟｯﾄ多頭飼育等不衛生・安全確保の配慮がない等				
支援者との関係	※22	協力態度	拒否・接触困難等。接触可だが非協力な場合は「やや」	※			
	23	援助効果	調整・改善が期待できない等 時々効果がある場合「やや」				
守る人	※24	子を守る人	日常的にいない場合該当	※	／		
			各欄の該当点数				
			総点数				

＜リスクランク表＞

生命・重度		生命の危険がある。健康や成長に重大な影響を与える場合（可能性も含む）	該当12点以上 保護も視野に集中支援実施	A
中度	重	治療を要しない外傷等。長期的には大きな課題が残ると危惧されるもので、外部からの介入がないと改善の見込みがないもの	該当7～11点 具体的な在宅支援実施	B
	軽			C
軽　度		暴力等が存在するが、一時的で一定の統制下にある場合		
虐待危惧		「虐待しそう」などと訴える場合　近い将来虐待リスクが高まる心配があるもの	該当6点以下 虐待予防の支援実施	D

＜使用方法や注意点＞　＊2回目以降の各項目チェックは前回からの変化をチェックする

1：各項目の摘要欄を見て、「該当」「やや該当」「非該当」「不明」のいずれかにチェック（印）を入れる。
2：※印番号の「該当」は2点　※印なしの「該当」は1点、「やや該当」の点数も考慮し2か所で1点として計上。
3：総点数による大まかなケースの重症度は＜リスクランク 表＞のとおり（Aのなかには特Aも含まれます）。
4：「虐待・傷の程度」では0歳児～3歳児はハイリスク対象として（頭部・顔部・頚部・性器・内臓への打撃等軽微でも重大な結果が生じやすい部位）考慮しランクを決定する。　特に0歳児はワンランクアップのリスク管理。
5：不明項目が多いものは評価を保留する。　調査に応じないための「不明」はハイリスク管理。

旧 リスクアセスメント （初回・

別添4 p9

ケース番号	―	評価日	平成　年　月　日	記入者	
児童氏名	男・女（　　）歳				
虐待の種類	（主◎　副○）　身体・ネグレクト・心理・性的				
虐待者と具体行為	虐待者	行為		アセスメント評価	

大項目	番号	小項目	摘　要（以下に応じてチェック）	重度	中度	軽度	不明
虐待程度	※1	傷の程度	重度＝要治療、中度＝慢性の痣等、軽度＝痕が残らない				

大項目	番号	小項目	摘　要（以下があれば該当）	該当	やや	非該当	不明
虐待態様	※2	虐待の継続	常習・何日も放置等。頻度が少ないのは「やや」。				
	3	虐待歴の有無	入院歴・施設歴・（早期の親子分離）。不審な説明は「やや」				
	※4	性的虐待	疑いでも該当。		／		
通告元	※5	関係機関	警察・医療機関からの通告は該当。		／		
子ども	※6	身体的状態	障害・発育不全・ｱﾚﾙｷﾞｰ等。理由不明の腹痛等は「やや」。				
	※7	精神状態	不安・うつ的・攻撃的・暗い表情等。場合によりは「やや」。				
	8	日常監護欠	監護なし。不潔・医療放置等。部分的なら「やや」。				
	9	問題行動	暴力・盗み・家出・自傷・徘徊・怠学等。時々なら「やや」。				
	※10	意思・気持ち	親を嫌う・帰りたがらない・アンビバレンツ等。		／		
虐待親	11	精神的状態	うつ的・通院服薬（疑いがある場合も）等。				
	12	性格的問題	攻撃的・未熟・衝動的・偏り等。		／		
	※13	アルコール等	依存・薬物乱用の疑い等。		／		
	14	被虐待歴	親の被虐待歴・祖父母に愛されなかった思い等。		／		
	15	子への感情	子ども嫌い・産まなければ良かった等。		／		
養育態勢	※16	虐待自覚	自覚なし・体罰容認等。親が過ぎたと認める場合「やや」。				
	※17	養育能力	意欲なし・知的障害等。飲酒で不適切な場合は「やや」。				
	18	養育知識	知識不足・不適切な知識等。情報過多で過干渉は「やや」。				
家族環境	※19	社会的支援	孤立的・親族の対立過干渉等。非常時の支援は「やや」。				
	20	夫婦問題	夫婦不和・夫婦間暴力・家出・別居・未婚・（再婚・内縁）等。		／		
	21	経済問題	借金・生活苦・失業・転職・計画性の欠如等。		／		
	22	生活環境	劣悪な住居・安全確保の配慮がない等。				
支援者との関係	23	協力態度	拒否・接触困難等。接触可だが非協力な場合は「やや」。				
	24	援助効果	調整・改善が期待できない等。時々効果がある場合は「やや				
守る人	※25	子を守る人	日常的にいない場合該当。		／		
			各欄の該当個数				

＜重症度表＞

生命・重度		生命の危険がある。健康や成長に重大な影響を与える場合（可能性も含む）。	該当8～10個以上 一時保護の実施	特A・A
中度	重	治療を要しない外傷等。長期的には大きな課題が残ると危惧されるもので、外部からの介入がないと改善の見込みがないもの。	該当4～7個 具体的な在宅支援実施	B
	軽			C
軽　度		暴力等が存在するが、一時的で一定の統制下にある場合。		
虐待危惧		「虐待しそう」などと訴える場合。	該当4個未満 市町村の子育て支援	D

＜使用方法や注意点＞

1：各項目の摘要欄を見て、「該当」「やや該当」「非該当」「不明」のいずれかに印をつける。　※は重要な項目（評価2）。
2：該当項目の個数を数える。（ケースの状況に応じて「やや該当」の個数も考慮する）
3：該当個数の数による大まかなケースの重症度は＜重症度表のとおり＞。
4：あくまでも補助的な指標なので、目安やケース管理として用いること。不明項目が多いものは評価を保留する。
5：第1項目の「傷の程度」は、年齢（0歳児は1ランク上げる、1～3歳はハイリスク）、部位（頭部・顔部・頚部・性器・内臓への打撃など、軽微でも重大な結果が生じやすい）も考慮して程度を決定。